



エコロコレクション

～身近な自然と遊ぶ体験アイデア集～



もくじ

もくじ・メッセージ

ひょうごエコロコプロジェクトのご紹介	1
教育・保育現場のまなざし	2～8
実践事例「土（砂）」（亀山 秀郎/認定こども園七松幼稚園）	
実践事例「植物」（松山 孝博/千草こどもの園）	
実践事例「光」（山中 詩子/こどもなーと山田保育園）	
コラム	9
「自然体験はどうして必要？」（永井 毅/湊川短期大学）	
博物館のまなざし	10～18
「むしさんをてにのせよう！」（八木 剛/人と自然の博物館）	
「木の葉っぱ7カード」（小舘 誓治/人と自然の博物館）	
「どんぐりなりきりたいそう『ぐんぐんどんぐりこ』」（大平 和弘/人と自然の博物館）	
「おっきくしてみよう！」（高瀬 優子/人と自然の博物館）	
兵庫県からのコンテンツ紹介	19～20
環境紙芝居『アマモのもりへのぼうけん』（ひょうご環境保全連絡会）	
ウェブサイトのご案内・運営体制	

メッセージ

みなさんは「ふるさと」ときいて
どのような風景を思い浮かべるでしょうか。

実家とその周辺？ 田畑などの田園風景？
それぞれだとは思いますが、おそらく子ども時代の楽しい遊びの体験と
「ふるさと」には深いつながりがあると思います。

この冊子は植物や虫、土（砂）、光などの身近な自然と子どもが幸せに出会い、
興味をもって「遊ぶ」きっかけとなるように、願いをこめて作成しました。

掲載している遊びは、簡単な準備物で気軽に取り組めるものばかりです。
子どもたちの状況や幼稚園・保育所等の周辺の環境に合わせ、
それぞれ独自に発展させてください。

子どもと身近な自然とのワクワクの出会いが毎日の遊びの中でくりひろげられ、
ふるさと兵庫が大好きな子どもたちが沢山育っていくことを願っています。
手に取ってパラパラめくり、気になるところを日々の子どもたちとの
遊びに取り入れていただければ、とても嬉しく思います。

ひょうごエコロコプロジェクトより

Ecology

環境

×

Local

地域

×

Codomo

こども

エコロコ

ふるさと兵庫こども環境体験推進事業

ふるさと兵庫こども環境体験推進事業

愛称「ひょうごエコロコプロジェクト」とは

エコロジー感覚（エコ）とふるさと意識（ロコ※）を

身につけた子ども「エコロコ」を育てるために、

子どもたちに環境に関わる体験を沢山届けるプロジェクトです。

2019年4月から、兵庫県環境政策課と兵庫県立人と自然の博物館が事務局をつとめ、
大学、幼稚園・保育所などの先生たちと実行委員会をつくり進めています。

※local(地域)とcodomo(子ども)の文頭文字をとった造語

兵庫県立人と自然の博物館などの専門家が
子どもと自然とのドキドキの出会いをプロデュース

ひとはくはかせと
しぜんたいけん



虫や植物の達人が
あなたの園にやってくる！

しぜんえんそく



公園におでかけして、
虫や植物とふれあおう！

親子でたいけん



ホタルやセミの羽化などの
スペシャル体験！

子どもと自然とのワクワクの出会いを
毎日の遊びの中でできるようにお手伝い

コンテンツ開発



園庭&おさんぽが楽しくなる
お役立ちグッズをお届け！

交流・研修の充実



実践発表、情報交換の場づくり

ボランティア育成



子どもたちの体験を支援する
「エコロコサポーター」を育成

教育・保育現場のまなざし

幼稚園、保育所などの現場では、
子どもたちが今、ワクワクしていること
を大切に、子どもたちの好奇心を
のばす環境づくりを行っています。
ここでは、エコロコプロジェクト検討
委員の実践事例をご紹介します。

土(砂)

きっかけ

園庭や公園砂場は子どもたちにとって魅力的な遊びがうまれる場所。いつもの遊びの光景から子どもたちがなげに夢中かその興味の向かってる姿を観察することからいろんな活動の糸口がみえてきます。

体験の広がり

いつもの砂場遊びに+1アイテム。砂への好奇心、探究や表現がふくらんでいきます。



砂場はアトリエ

子どもの遊びの姿からみる砂の魅力

●砂だけで



●水を加えて



●自然物を加えて



●いろんな道具素材を加えて



質感、色、感触、量、見立て…砂に触れること自体が子どもたちにとって体験の宝庫。砂の特質である可塑性は道具や素材を加えることで子どもたちが夢中に遊びこむ主体的な活動(探究や表現)が広がる絶好の環境といえます。



砂への興味が広がったら、砂を素材に展開するこんな活動がおすすめ!(裏面へ)

○準備するもの

- ・海砂、川砂・スコップ・水（海水）
- ・底が切り取られたプランターやバケツなど・左官用コテなど
- ・木々や貝

触覚【五感へのつながり】

手足で砂を組み合わせると色々な形、模様に生まれ変わります。

砂は、砂場の砂だけでなく、川砂、海砂、土と混ざった砂など、砂といっても様々なものがあります。また、砂には可塑性があるだけでなく、砂粒の大小、多様な形、温度等を触覚を通して感じることができます。自然物と組み合わせると砂で出来上がるものは、無限の可能性を秘めています。素手と素足になって砂を十分に感じてみましょう。

【事例紹介】ひょうごエコロコプロジェクト検討委員

亀山 秀郎

（認定こども園七松幼稚園 園長）



プレイフル・サンドアート【展開例】（3歳～5歳 60分）

～砂をアートに変えよう！～

©笠間浩幸

10分

○基本の技を知ろう！「砂と水でこんなこともできるの！」

底を切り取ったバケツを使った大きな砂型づくりや、手だけで砂を固めてつくる動物やキャラクターなど、基本の技を伝えたり、作品モデルを紹介する。

40分

○思い思いの制作活動

子どもたちが思い思いのサンドアートに挑戦できるようにする。もし、苦戦している場があった際には、支援者が適宜声かけやサポートを行う。

10分

○互いの作品紹介

子どもたちに、自分の作品をみんなに向かって紹介してもらう。

【安全上の注意】

夏場暑い時の実施の際には、熱中症対策として、日除け、水分補給、休憩時間を取る。砂に埋もれる事故を避けるため、深い穴を掘ったり、トンネルを作ったり、掘り抜けたりしないこと。5歳児向けの左官用のコテは必ず砂場に突き刺すように話をする。

STEP UP!

1) 山を作ろう！：砂を積むだけで完成！

2) お城を作ろう！：バケツ等と水とを組み合わせると固い固形ができます。それを削るとお城の完成！

3) 町や生きもの：貝や木々、線を繋げると町の完成！



POINT!

最初は砂の性質になれる体験なので、掘る、のせる体験からスタートしましょう。バケツやプランターを用いて、固い造形物を支援者が作り、年齢低い子どもたちを加えてもらいましょう。

砂場や海辺にない布を用いると、他のものに見立てられます。園の砂場で実践する時には、壊れないように、入らないように数日かけて実践してみましょう。

砂遊びには、年齢が高くなるにつれて、協同性を育む場面が多くあります。友達とイメージを共有して、一緒に活動することでしょう。例えば、創るために水や自然物を運ぶ人、形を創る人、掘る人等、皆の役割がとても重要です。先生も一緒に砂遊びをして、どのような協力が砂遊びに必要なか実践してみてください。

植 物

きっかけ

子どもたちと園の近くの原っぱに出かける時に、子どもたちは自分から花を摘み、香りを匂い、色と子どもたちの五感で植物ら様々な情報を読み取り感じ、伝えようとしてくれています。四季の変化を植物とのふれあいを通して感じるきっかけを園では大切にしています。

体験の広がり

よくみること。友だちと発見を伝え合うことから植物への興味がふくらんでいきます。



四季を通じて色探し

植物は自然のパレット

●植物からみつけるいろんな色



●色ごとに探しだす色



●組み合わせてうみだす色



●音やカタチから想像する色



センスオブワンダーから うまれる色



当園では日常的に自然の中で活動します。植物は「色」の素材として遊んだ時に、いろんな活動がうまれていきます。四季によって出会う植物も変わり、子どもたちは実際に植物に触れ遊びながら様々な色と出会いを感じとっていきます。

いつも子どもたちの洞察の深さに驚き、また、子どもたちの姿から私たち保育者も自然の豊かさや美しさに感動します。

当園では、子どもたち一人ひとりの気づきや発見を深める対話の時間を活動の中で大切にしています。

体験の深まり

植物の色への興味を深めるこんな活動がおすすめ！
(裏面でご紹介します。)



○準備するもの

- ・集めた物を入れる透明のビニール袋

○準備すること

- ・どのようなテーマで集めるか決めておく
- ・ビニール袋に「きいろ」「ギザギザ」など入れるものを書いておく

嗅覚【五感へのつながり】 甘い匂い、にがい匂いなど自然にはいろいろ匂いがある。

摘み取った花の匂いやすり潰した葉っぱの匂いでみましょう。花の甘い匂いや、すり潰した葉っぱの苦い匂いを感じることは、快・不快や安全・危険を即断することにつながり、また、子どもの頃からの香りの存在を意識することでバランスよく五感が育まれ、豊かな感性を育むことができるようになるでしょう。

【事例紹介】ひょうごエコロコプロジェクト検討委員

松山 孝博

(兵庫県保育協会副会長、千草こどもの園園長)



植物で色探し

【展開例】(5歳児45分)

～自然界の中でいろんな色や形を集めてみよう～

- | | |
|-----|--|
| 5分 | ○子どもたちで集める色や形を話し合いで決めておく
(導入例)・「黄色」「ぎざぎざ」など、どのような色や形を集めるか説明
・集める物毎に袋を準備し、そこに入れるように伝える
・花や葉っぱなどは必要な分だけ集めるよう伝える |
| 10分 | ○子どもたちが決めた色や形の植物を集める |
| 20分 | ○園に持ち帰り、きれいにカゴに並べる |
| 10分 | ○色や形について思ったことや感じたことを話し合う |



【安全上の注意】

子どもの活動場所に、危険な植物や虫がないか事前に確認

STEP UP!

集めてきたものを使って色水遊びなどの制作やそのままごと遊びの材料にすると、活動に広がりが増えます。



POINT!

集める色を「白」「赤」など単純にすると低年齢児も参加を楽しめます。

「ギザギザ」の葉っぱを集めよう、という活動をしたとき、保育者は葉っぱの縁がギザギザの葉っぱを想定していたのですが、表面がザラザラの葉っぱを集めてきた子どもがいました。感触、見た目などそれぞれの感じ方が違い、一つにならないこともある、と保育者が子どもから学ばせて貰いました。

光

きっかけ

子どもたちの影への気づきから好奇心と発見がよりうまれるよう、きっかけの活動としていろんな角度から光と出会う環境を手渡すことに。

体験の広がり

子どもたちが自分で操れる小さな懐中電灯の光を手にして遊びます。いろんな素材を組み合わせることで、光と影の様々な姿に出会うことができます。

遊びと活動環境

小さな懐中電灯を手にして子どもたちが一人ひとりのペースで光と出会い、夢中に遊びこめるそんな活動。

手渡す素材の選別やタイミングも活動環境のひとつです。

子どもたち一人ひとりが光のどんな姿に興味関心を示し探究を繰り返しているのかを観察し丁寧に寄り添い見守ること。

時に、共に遊び楽しむこと。時に、子どもたちの発見から新たな光の一面を学ぶこと。

そんな私たち大人のまなざしもまた活動環境のひとつです。

身近なものでじっくり遊びこむ体験が、体感をともなって光を捉え知っていく豊かな経験となり、自分できちんかとうみだしていく表現へと繋がっていきます。

そして、こうした遊びから身近な自然環境に対する親しみと愛着が育まれていくと感じます。

【中心素材は小さな懐中電灯】



体験の深まり

小さな懐中電灯と
いろんな素材を組み合わせて



& 筒



& 容器



& ダンボール箱



& 透明カップ



& ペットボトルと水



& 氷



○準備するもの

- ・ブルーシート
- ・小さな懐中電灯（できれば人数分）
- ・水のはいったペットボトル数本
- ・カラーセロファン
- ・マスキングテープ など

視覚【五感へのつながり】 季節によって変わる影の長さ。
自然のふしぎ、おもしろさ。

カラーセロファンはくしゃくしゃになったものと新品のものでは光の見えかたが変わります。窓にマスキングテープなどをはっておくことで、外の景色が違って見え、また、太陽の光が差し込んだ時に床面に色がうつるなどの子どもたちの新たな気づきのきっかけづくり（環境）になります。カラーセロファンを水の入ったペットボトルにいとゆるゆると揺れ動き、色が溶け出して時間と共に色の変化が楽しめる色のボトルに変化します。
太陽光がさしこむ具合で虹がみえることも！

【事例紹介】ひょうごエココプロジェクト検討委員

山中 詩子

（こどもな一と 山田保育園）



光と遊ぶ

時間は目安として40分～60分

【展開例】（0・1・2歳）

- | | |
|-----|--|
| 10分 | ○ブルーシートの洞窟（懐中電灯なしで青い光の変化を楽しむ）
折りたたんだブルーシートを広げるところから子どもたちと一緒に。
保育者が手に持つのが難しければ紐などで固定しても。 |
| 5分 | ○懐中電灯を持ってブルーシートの中で光遊び
水の入ったペットボトルを数本用意。懐中電灯をあてると違った光の表情に出会えます。 |
| 15分 | ○ブルーシートの上で光の探究
電気を消した薄暗いお部屋の中を懐中電灯を持ちながら探検。
子どもたちの発見を見守りながら観察します。 |
| 10分 | ○カラーセロファンを加えて
様子をみてカラーセロファンを出します。
子どもによっては活動に満足して終わりはじめられるので、
頃合いをみて電気をつけて明るい室内で光と遊ぶ活動へシフトしていきます。
セロファンを顔にくっつけたり、窓にはったりして、太陽光の変化を楽しむ
きっかけとなります。 |

【活動の注意点】

- ・子どもが夢中で遊んでいる時はあまり声をかけすぎず側で見守ります。
- ・素材の出し過ぎに注意。（子どもの興味が薄れてきたら新しい素材を加えるなど工夫が必要。）

STEP UP! 活動でつかった素材のアレンジ

○光の窓

窓にマスキング
テープではりつ
けて。



○色のボトル

水のはいった
ペットボトル
に入れて。



園では子どもたちの今の興味・関心を起点とした活動をこころがけ、様々な素材と日常的に関わります。“カラーセロファンのアレンジ”例のように遊びこんだ素材を園内環境に活用することで、日々の活動が途切れることなく続き、ふとした時に子どもたちから新たな気づき（展開）が生まれやすいように感じます。また、毎日の活動記録（ドキュメンテーション）から保育者間でふりかえることは子どもたち主体の活動をする上で大切。こうした素材と遊ぶ体験の中で、子どもたちが自然に対して深く洞察していることに驚かされ、自分にとりこみ表現する姿に感動します。

自然体験はどうして必要？ ～自然とのかかわりを通して育つ子どもの力～

日本には四季があります。年間を通じ、自然は様々な表情を見せてくれます。小動物が生まれ息吹きを感じ暖かい空気とともに草花の芽吹く匂いに包まれる春。ギラギラとした力強い太陽のもとで動植物が生き生きと育ち、せめぎ合う夏。様々な実りを分け与えてくれ、彩り豊かな紅葉で深まる秋。そして、冬には雪や氷の冷たさの中で命をつなぐために生き物たちは静かに休み耐えます。そのような自然の優しさや厳しさなど、たくさんの刺激の中で、子どもは自由に様々なことに挑戦し主役になれます。

ところが、万人に平等な自然は、子どもにとって思い通りにいくことばかりではありません。自然体験を通して試行錯誤し発想力を活かし諦めずチャレンジすることで、諸感覚が研ぎ澄まされ、好奇心や創造力、忍耐力、考える力が育ち、たくましく生きる力につながります。

また、動植物と直接かかわることで、命の尊さを感じるとともに、生き物に対する優しい心や観察眼も養われます。さらに、自然の中で、友達と助け合い、励ましあい、ぶつかり合いながらコミュニケーション力を育んでいきます。

しかし、このように子どもの成長に有益な自然体験に対して、現代社会の都市化や情報化の発展によって、テレビゲームやインターネット等の室内の遊びが急激に増えています。その一方で子どもの生活環境で自由に自然とのかかわり合える遊び場が少なくなっています。特に友だちや家族と一緒に自然体験する機会は激減しているとの調査報告が出ています。

この現状に対して、子どもが自然とのかかわる機会を作ることは乳幼児の育ちにおいて必要不可欠であり喫緊の課題になります。そこで、国が定めた指針にあるような、乳幼児の保育内容として、自然とのかかわりを大切にした日々の教育・保育実践をおこなっている保育者の先生方の役割は、子どもたちの育ちにおいて大変重要です。

ひょうごエコロプロジェクトでは、自然と子どもをつなぐコンテンツ開発や実践者の交流・研修、自然体験のサポーター育成を行っています。また、兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）から研究員を派遣したり、自然体験イベントを開催したりしています。このような活動をもとに教育・保育現場や家庭での、子どもと自然の出逢いをお手伝いできれば幸いです。

ひょうごエコロプロジェクト検討委員 永井 毅
(湊川短期大学 幼児教育保育学科 准教授)

